

論文 キョンの本名についての考察

2008/10/11 by 変形

谷川 流氏著作のラノベ「涼宮ハルヒの憂鬱」シリーズに出て来る主人公「キョン」の本名について考察してみました。

「キョン」という名は周知の通りあだ名で、本名は原作内でも明かされていません（作者も決めてはいないらしい）。現時点での最新巻である「涼宮ハルヒの分裂」にキョンの本名についての重要な情報があるので、それをもとに本名がどのようなものか、考案してみたいと思います。

1) 下の名前 (First Name) についての考察

「キョン」というあだ名を考えついたのはキョンの叔母の一人で、高校1年生の年の何年か前に本名をもじって呼び、面白がった妹がキョンの友人たちに吹聴して広めた（「涼宮ハルヒの憂鬱」27 ページ）。

→叔母が考案し妹が広めたということであれば、「キョン」というあだ名は（少なくとも主として）キョンの First Name に由来するものであり、苗字に由来するものではないと考えられます。苗字に由来するのであれば、妹にも「キョン」というあだ名が該当することになり、本人は面白くなく、従って他人に広めるということはないでしょう。

中学3年生の時には「キョン」というあだ名は広く友人たちに使われていた（「涼宮ハルヒの分裂」83 ページで佐々木が質問している）。

→キョンが中学生以前の時につけられたあだ名であるので、キョンが高校1年生になった年が原作第1巻発表年の2003年頃であれば、2000年前後につけられたものと考えられます。叔母（父の妹か母の妹かは不明。親の姉なら伯母になります）の年齢が2000年前後で30～40歳位と考えると、1960～1970年頃の生まれということになります。その年代の人が思いつく「キョン」とは？…私には八丈島のキョン（がきデカ）、キョンシー（中国のゾンビ殭屍）、キョンキョン（小泉今日子）、深キョン（深田恭子）くらいしか思いつきませんでした。

本名の読み方からは「キョン」というあだ名は連想できない（「分裂」83ページの佐々木の言葉「それがキョンになるのか？」）。

→本名の読みは「キョウ」や「キヨ」など、「キョン」に似た音を持たないということになります。ですから、「清（きよし）」とか「恭一（きょういち）」という名前は該当しません（読みが異なればこれらの漢字も使用できます）。

本名の文字からは「キョン」というあだ名が連想できる。佐々木はキョンの本名の漢字表記を言い当てた（「分裂」83-84 ページ）。

→漢字の別読みか構成部分か意味から「キョン」が連想できるということでしょうか。「漢字」で表記する名前ですので、ひらがなやカタカナ、アルファベットやハングル文字などは該当しないことが明らかになりました。もちろんキョンが「笹の葉ラプソディ」の作中で使っている偽名「ジョン・スミス」は本名ではありません。本名なら、入学式の日ハルヒに3年前に出会っていたことがばれ、その後の展開が

めちやくちやになります。

キヨンの本名はどことなく高貴で壮大なイメージを思わせる（「分裂」84 ページ）。

→ありふれた名前ではなさそうです。ただし「どことなく…思わせる」と佐々木が語っていることから、誰もが知っているような有名な「高貴な名前」ではないのでしょう。

キヨンの本名の由来について、キヨンは昔父親に尋ね、その内容を聞いた佐々木も感心している（「分裂」84 ページ）。

→由緒ある名前だが、説明を聞かないと、頭がいい中学生の佐々木にも思いつきにくい由緒のようです。やはりありふれた名前ではないことを示唆しています。

キオン自身は「キオン」というあだ名を好んではいない（「分裂」84 ページ）。しかし明らかに拒絶するというこもしていない。本名はあだ名よりいくらかマシという程度（「憂鬱」39 ページ）。

→本名に対しても少しは引け目があるのかもしれませんが（名前負けしているとか）。

みくるも早くからキヨンのことをあだ名で呼んでいる（「憂鬱」92 ページ）。

→みくるなら親しくなっても本名（苗字または下の名前）に「くん」をつけて呼びそうな気がします。本人が好まないあだ名で呼ぶようなことはむしろ避けるでしょう。それなのに早々にあだ名で呼ぶようになったのは、本名が言いにくい（発音しにくい？）からでしょうか。

以上をまとめると、キヨンの下の名前（First Name）は、本人がやや気後れするほどの壮大なイメージのある由緒ある名前であるとともに、「キヨ」や「キョウ」という読みを含まない、やや呼びにくい（発音しにくい？）名前ということになります。…例えば「戦人（ぼとら）」のように呼ぶのが気恥ずかしい名前とか。

2) 苗字 (Family Name) についての考察

高校入学時のクラスの席順は、出席番号順で男女交互に並び、ハルヒの直前だった（「憂鬱」10 ページ）。TV アニメでは谷口の2つ前だった。

→アニメを根拠としてよいのかどうかわかりませんが、最初は出席番号順、すなわち苗字の読みの五十音順で席が決められたとすれば、「たにぐち」より少し前に該当する苗字ということになります。五十音順で並べて男女が完璧に交互になるということはまずあり得ませんので、男女を別々に五十音順で並べ、男子の間に機械的に女子を挟んだことになります。従って、苗字の読みは「すずみや」より前である必要はありません。

オフィシャルファンブック「涼宮ハルヒの公式」によるとアニメにおけるキヨンのクラスの学生名簿の設定は下表の通りです（原作の「憂鬱」10 ページによれば、出席番号順に男女交互で並んでいて、左端の列から自己紹介を始めたことになっていますが、アニメでは席順が15番目の谷口が右端から3列目の一番後に席があるので、右端の列から席が並んでいます。自己紹介も当然出席番号に応じた席順で行うと思いますので、先生からみて左端と解釈したのでしょうか？）。

表1. キョンのクラスの学生名簿

男女混合で五十音順で並んだ場合			男子五十音順	女子五十音順		
朝倉	(あさくら)	女	荒川	(あらかわ)	朝倉	(あさくら)
荒川	(あらかわ)	男	植松	(うえまつ)	大野木	(おおのぎ)
植松	(うえまつ)	男	垣ノ内	(かきのうち)	剣持	(けんもち)
大野木	(おおのぎ)	女	国木田	(くにきだ)	佐伯	(さえき)
垣ノ内	(かきのうち)	男	後藤	(ごとう)	阪中	(さかなか)
国木田	(くにきだ)	男	榊	(さかき)	鈴木	(すずき)
剣持	(けんもち)	女	[キョン]		涼宮	(すずみや)
後藤	(ごとう)	男	谷口	(たにぐち)	瀬能	(せのう)
佐伯	(さえき)	女	手島	(てじま)	高遠	(たかとお)
榊	(さかき)	男	豊原	(とよはら)	成崎	(なるさき)
阪中	(さかなか)	女	中嶋	(なかじま)	西嶋	(にしじま)
鈴木	(すずき)	女	花瀬	(はなせ)	葉山	(はやま)
涼宮	(すずみや)	女	松代	(まつしろ)	日向	(ひゅうが)
瀬能	(せのう)	女	山根	(やまね)	柳本	(やなもと)
高遠	(たかとお)	女	吉崎	(よしざき)	由良	(ゆら)
谷口	(たにぐち)	男				
手島	(てじま)	男				
豊原	(とよはら)	男				
中嶋	(なかじま)	男				
成崎	(なるさき)	女				
西嶋	(にしじま)	女				
花瀬	(はなせ)	男				
葉山	(はやま)	女				
日向	(ひゅうが)	女				
松代	(まつしろ)	男				
柳本	(やなもと)	女				
山根	(やまね)	男				
由良	(ゆら)	女				
吉崎	(よしざき)	男				

入学時の席の位置					
教壇					
日向	中嶋	瀬能	榊	剣持	荒川
山根	西嶋	手島	鈴木	国木田	朝倉
柳本	花瀬	高遠	キョン	佐伯	植松
吉崎	葉山	豊原	涼宮	後藤	大野木
由良	松代	成崎	谷口	阪中	垣ノ内

この名簿に基づけば、キョンの苗字は五十音順で「さかき」より後、「たにぐち」より前ということになります。

みくるも早くからキョンのことをあだ名で呼んでいる（「憂鬱」92 ページ）。

→上に書いたのと同じことですが、みくるなら親しくなっても本名（苗字または下の名前）に「くん」をつけて呼びそうな気がします。それなのに早々にあだ名で呼ぶようになったのは、苗字も言いにくい（発音しにくい？）からではないでしょうか。少なくとも「田中」のような、平易な苗字ではないように思われます。

漢字の読みがわかりづらい難読苗字というのがあり、その代表として「小鳥遊（たかなし）」というのが有名です。PC ゲーム「処女はお姉さまに恋してる」や「ツンデレでヤンデレな幼馴染・小鳥遊双葉さんとHなことをするゲーム」にもそういう苗字の登場人物がいます。しかし「小鳥遊」をどう読むかわかりにくいとしても、読みの

「たかなし」は発音しにくい訳ではないので、キョンの苗字が仮に「小鳥遊」であれば、みくるは普通に「たかなしクン」と呼ぶでしょう。

従って、読みがわからない苗字ではなく、言いづらい苗字であるという推測が妥当なように思われます。例えば「有栖川宮（ありすがわのみや）」とか「高円宮（たかまどのみや）」とか「右代宮（うしろみや）」とか、読みが長い名前はいちいち呼ぶのが大変でしょう（前二者は皇室関係ですからもちろんキョンには該当しません。そこまでキョンの血筋が良いとは思えません）。これらのような長い苗字を（アリスくんというように）短縮して呼ぶ方法もありますが、それよりは皆が使っている「キョン」というあだ名の使用をみくるが選択したと考えると矛盾はなさそうです。

以上をまとめると、キョンの苗字（Family Name）は、五十音順で「タニグチ」より少し前の、やや言いにくい（発音しにくい？）苗字ではないかと考えられます。そのため友人たちも、本名ではなく発音しやすい「キョン」というあだ名を好んで使うのではないのでしょうか？

参考までに最初の読みが「さかく」から「たな」までの言いにくそうな苗字をリストアップしてみると…

表2. 言いにくそうな苗字の例（さかく～たな）（独断と偏見です。すみません）

サカグタ	坂口	ジザイマル	自在丸	ショウマツモト	正松本	ダイオウマル	大王丸
サカナクラ	肴倉	シシャ	熊取谷	ジョオン	上村	ダイオク	大屋
サカネト	坂本	シジュウク	四十九	ジョルジ	武藤	ダイカイジ	大海寺
ザカビ	座嘉比	シジュウボウ	四十坊	シラスカ	白須賀	ダイカク	大角
サガミズシ	小室	シシワ	時々輪	シラニ	白仁	ダイガク	大学
サカワガワ	酒匂川	シタハク	志多伯,志多伯	シリナシハマ	尻無浜	ダイカツマル	大勝丸
サキサコ	崎迫,寄迫	シチク	紫竹	シルビア	菊地	ダイガンマル	大鷹丸
ザキミ	座喜味	シチジ	七字	シルビオ	千代田	ダイキョウジ	大京寺
サキムカイ	崎向	シチリ	七里,七理	ジロウジマ	次郎嶋	ダイキョク	大極
サクサ	佐草	シットウ	出頭	シロウズ	白水	ダイク	大久,大工
サクラサコ	桜迫	シヅリ	志津利	シロウゾノ	四郎園	ダイクソノ	大工園
ザウウジ	座光寺	ジトウソノ	地頭菌	シロマヤギ	城間屋宜	ダイクハラ	大工原
サコバヤシ	浴林	シトキシ	四戸岸	シンウシゴメ	新牛込	ダイクロ	大黒
サコブン	迫分	シトトミ	志土富	シングウリョウ	新宮領	ダイコウジ	大光寺
サコンジュウ	左近允,左近充	シノヘ	四戸	シンゾウブチ	新蔵淵	ダイコク	大黒
サシガクボ	差ヶ久保	シハク	志伯	シンハ	榛葉	ダイゴク	大極
サソザキ	所崎	ジフリ	自振	シンバル	新原	ダイコクヤ	大黒谷
サソリ	佐曾利	シボウタ	柴生田	ズイアン	隋安	ダイドウグチ	大道口
サダガサキ	三段崎	シホウテン	四方天	スイガラ	末柄	ダイトク	大徳
サダカリ	貞莉	シホヤ	志甫谷	スエリ	三分一	ダイトクヤ	大徳屋
サツウ	佐通	シマズイ	島居	スガサハラ	菅佐原	タイノソン	台之尊
サツパ	颯波	シマタイ	島袋	スガムタ	須ヶ弁田	ダイマン	大萬
サテ	左手	シマメグリ	島巡,島廻,嶋廻	スギババ	杉馬場	タイムラ	田井村
サトア	佐藤	シミズガシラ	清水頭,清水頭	スギハライ	杉原井	タイラカワ	平川
サトイウ	斉藤,齋藤	シミズガミ	清水上	ズケラン	瑞慶覧	タイラク	平久,泰楽,太楽
サドトモ	佐渡友	シミズメ	清水目	スズメガノ	雀ヶ野	タイラコ	平子
サトフカ	里深	シミニイハラ	下新原	スナガレ	砂流	タイラブネ	平船
サハク	佐伯	シメ	七五三	スミス	寿美洲	ダイロク	大六,大録
サハコ	佐波古	シメカケ	七五三掛	スミヨシヤ	住吉屋	タウ	唐
サベツトウ	佐別当	シモウセ	下鶴瀬	セイシュウヤ	勢州谷	タカエガラ	高江柄
サミズ	三水	シモエノオ	下酔尾	セザイマル	瀬在丸	タカエス	高江洲
サムラカミ	村上	シモグチヤ	下口谷	セシュヤマ	世取山	タカオク	高奥
サウウダ	左右田	シモコウリヤマ	下郡山	セチバル	世知原	タカクサキ	高草木
サユダ	左右田	シモコゾノ	下小菌	セリア	堀之内	タカジツコ	高実子

サラカイ	皿海	シモサカイダ	下境田	セリウ	芹生	タカシハシ	高橋
サラダ	皿田	シモヂイチ	下知市	セリキヤク	勢理客	タカススキ	高薄
サララ	皿良	シモツマガリ	下津曲	セルジオ	隅田,広瀬,米谷	タカダイシ	高田石
サリウ	佐宗	シモトク	下徳	セルヒオ	宮城	タカトク	高德
サワカワ	沢川	シモトソ	下唐湊	セルヒヨ	入野田	タカミズマ	高三瀧
サワタイシ	沢田石	シモトマイ	下斗米	ゼンカイムスメ	全快娘	タカムク	高椋,高向
サワツバシ	沢津橋	シモニシノソノ	下西ノ園	センダイヤ	仙台谷	タカラヤシキ	宝屋敷
サンコダ	三小田	シモヌリ	下温湯	センタヤマ	仙田山	タガリコ	田莉子
サンシエス	坂本	シモヒゴシ	下吹越	センチ	泉地	タキオク	滝奥
サンビヤクガリ	三百莉	シモマヤマ	下間山	センネンバラ	千年原	タキギク	瀧聞
ジアンゲ	寺庵下	シモヤカワ	下八川	センボギ	千保木	タキドウウチ	滝童内
シイイ	椎井	シモヨッカイチ	下四日市	ゼンモサ	善茂砂	タク	多久,宅,卓
シイク	推久	シモリク	下陸	ゼンモサク	善茂作	ダクジアク	大工廻
シイタダ	後田多	シモンミョウ	下名	ソ	蘇	タクロ	田畔
ジウウジョウ	重城	ジャジマ	麿嶋	ソイ	副	タケカメヤ	竹亀谷
シウエサト	後上里	ジャネツト	丹羽	ソウケタニ	宗家谷	タケシヨウジ	竹小路
シウドウ	首藤	ジュアサ	寿浅	ソウゴヤ	相合谷	タゴク	田極
ジュシカ	知花	ジュウゾウジ	十蔵寺	ソウジョウブン	惣上分	タコラ	田古良
シオウデン	四王天	ジュウニチヨウ	十二町	ソウズヤマ	寒水山	タコリ	田古里
シオク	志奥	シュウリュウ	紫虹流	ソウノダイ	相野台	タタキグチ	滝口
シオニュウ	塩生	シュキラ	下村	ソウバル	草原	タタノウ	多々納
ジガク	自覺	ジュニオル	岩田	ソエ	副	タタミ 多々見,多々美	
シカバヤシ	鹿林	ジュフク	寿福	ゾク	続	タタミサン	畳指
シグイハラ	嶋原	シュメ	主馬	ソケン	祖堅	タタミダニ	畳谷
シクボウ	宿坊	シュワリ	種昂	ソテツモト	蘇鉄本	タチバタケ	立畠
シクワ	宿輪	ショウイリキ	正入木	ソトカワウチ	外川内	タチバナキ	橘木
シゲシロ	重白	ジョウウンテン	上運天	ソフク	曾福	タチバナゾノ	橘園
シゲヨウ	執行	ショウカンソウ	将監荘	ソヤバル	曾谷原	タツヅキ	田続
シゲロ	茂呂	ショウコンジ	正根寺	ソレニア	当間	タツトウ	立唐
シゴカ	新後閑	ショウブン	正分	ダイアナ	川島	タツノクチ	龍口
シコロヤマ	鑿山	ショウブンコ	勝文字	ダイアン	大安	タテガサワ	館ヶ沢
						タナカダテ	田中館

(「名字博士」で公開されている5万種の苗字から抽出しました)

3) 妹の名前についての考察

キョンの妹も本名が出てきません。ハルヒやみくるには「妹ちゃん(さん)」と呼ばれていました。この事実は、キョンの妹も発音しにくい凝った名前がつけられていたことを示唆します。キョンの父がそういう名前をつけたがる性分だったのでしょうか。

4) キョンの名前の候補

以上の情報と考察をもとに、キョンの唯一の本名を言い当てることは至難です。正解も用意されていませんから、あっているかどうか確認できません。ですから気楽な言葉ゲームとしてキョンの名前の候補を考えてみました。

もちろん、キョンの本名が「右代宮戦人(うしろみやばとら)@うみねこのなく頃に」かもしれないというのは冗談です。そうだとしたら妹の名前は「縁寿(えんじゅ)」になってしまいます。かつてアニメオタクだった叔母さんが戦人(ばとら)のことを「コンバトラーV」と呼び、「コン」が訛って「キョン」になった、あるいはキョンの字が下手で、「戦人」の「単」が「キ」に、「戈」が「オ」に、「人」が「ん」に見えて、「キオン」から「キョン」というあだ名ができた…という苦しい説明をしなければなりません。もう少し真面目に考えると…

(候補 1)

キヨンの名前：田井村 樹音 (たいむら じゅね)
妹の名前： 田井村 亞蘭 (たいむら あらん)

(説明)

父親は、平家物語の冒頭「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす」から採った名前(沙羅双樹→樹、鐘の声→音)で、荒々しい強者もゆくゆくは滅びてしまうので、無理に栄華を求めず、心安らかに生きてほしいという願いを込めたと説明した。本当は母親が若い頃に読んでいた世界初の BL 系コミック誌「comic JUNE (ジュネ)」(サン出版)から採った(創刊は 1978 年 10 月号で、1 号と 2 号は「comic JUN」という誌名だった)。

叔母(母親の妹で、姉の影響を受けていた)は当然それを知っていて、「ジュネ」という名を呼ぶのに抵抗を感じたので、「樹・音」の「き・おん」という別の読みから「キヨン(キオン)」と呼ぶようになった。佐々木は「comic JUNE」のことを知らなかったので、素直に感心した。

妹の名の亞蘭は、同じく BL 系コミック誌で、1980 年 10 月に創刊した「ALLAN」(みのり書房)という雑誌名から採った。アランは男名に聞こえるので、ハルヒたちは遠慮して妹の名前を呼ばなかった。

「たいむら」も「じゅね」も発音しにくいし、特に「タイムラ」はみくるに時間移動を意識させるので、禁則による制限で言えなかった。

(候補 2)

キヨンの名前：多々美 八丈 (たたみ はちじょう)
妹の名前： 多々美 三城 (たたみ みき)

(説明)

八丈とは平安時代から朝廷に献上されていた絹織物のこと(一疋の長さが八丈、約 24 メートルだったから。八丈島は黄色の絹織物「黄八丈」で有名になったことからついた島名)で高貴な印象がある。父親は、絹織物のようにしなやかで腰の強い人物になってほしいとの思いから命名したと説明した。銀河万丈(声優)や波瀾万丈を連想させるので壮大な印象を受ける。本当は苗字が「たたみ(畳)」なので八畳間を連想してつけた。

妹の名は三畳から。父親の名は多々美 譲二(←二畳)、祖父の名は多々美 方丈(←四畳半)、母の名は多々美 ゆかり(←畳縁)、叔母の名は多々美 加絵(←畳替え)だろう。

キヨンのあだ名は当然「八丈島のキヨン」から連想してつけられた。本名はどうしても「畳八畳」を連想させるので、親しい友人達は気を遣って(あるいは笑ってしまうので?)本名を避けてあだ名で呼んでいた。

(候補 3)

キヨンの名前：谷川 惣 (たにがわ そう)
妹の名前： 谷川 溪 (たにがわ けい)

(説明)

「惣」とは鎌倉時代後期に生じた村落「惣村」のことを指すが、本来は「総」と同

じで「すべて」という意味があり、父親は人格が偏ることのない総合的に立派な人間になるという意味だと説明した（壮大で高貴というのは佐々木の勝手な好印象）。

キョンが小学生の頃に自分の名を漢字で書いて叔母に見せたところ、字が下手だったため「惣」を構成する「牛」が「キ」に、「勿」が「ヨ」に、「心」が「ん」に見え、「これじゃあ惣でなくキョんだ」とからかわれた。それ以来その叔母は「キョンくん」と呼ぶようになった。

苗字の「谷川」は発音しにくい訳ではないが、作者「谷川 流」と同じ（主人公は作者の分身であるため、苗字も同じ）なので、あえて作中で呼ばせなかった。ちなみに「惣」も妹の名前の「溪」も後に「流」という字をつけると熟語、「惣流（アスカの苗字!?)」と「溪流」になる。「溪」にはもともと谷川という意味がある。キョンと妹の兄妹喧嘩を「惣溪戦（早慶戦）」と呼ぶとか呼ばないとか。

（候補 4）

キョンの名前：高草木 森（たかくさき しん）

妹の名前： 高草木 林（たかくさき りん）

（説明）

「森」というのは木が広範囲に生い茂っている意味に思われているが、本来は神が宿る木々、人里離れた神霊が住むところを示す。むしろ林の方が密林（ジャングル）に使われるように木の密集を指す（典拠：呉智英著「言葉の常備薬」）。父親はそう説明して、神霊がかった壮大さ・高貴さに佐々木も感心した。

苗字の最後に「木」があり、さらに名前に「森」と木が3つもあるので、「木が四本」から「キ・ヨンホン」→「キョンポン」と叔母がふざけて呼び、いつしか「キョンくん」になっていた。

この論でいくと妹は「キ・サンボン」になるが、誰も言わなかったのもそのようなあだ名は生じなかった。妹の場合「リンちゃん」と呼んで何の不都合もないが、キョンの友人は、キョンたちが兄妹で「森林」になることを思い出すとつい笑ってしまうので、二人を本名で呼ぶことを避けている。

古泉が所属する機関のメンバーである森 園生と名前がかぶるが、読みが違うので問題はない。

（候補 5）

キョンの名前：大安 況（だいあん けいん）

妹の名前： 大安 妹（だいあん まい）

（説明）

苗字が「ダイアン」と洋風に聞こえるので下の名前も洋風にしたかったのと、もっと子供を作るつもりで「兄」という字を名前に入れたかった父親の思惑で、偏の「にすい」を「ン」、旁の「兄」を「ケイ」と読んで全体で「ケイン」と読ませた（壮大で高貴というのは佐々木の勝手な好印象）。

「兄」は「キョウ」とも読めるので、叔母は「キョウン」とふざけ、それがいつのまにか「キョン」と言いやすく縮まって定着した。みくるを始めとするキョンの友人たちは、明らかな日本人であるキョンに対して洋風に「ダイアン」とか「ケイン」と呼ぶのに抵抗を感じたため、もっと言いやすい「キョン」というあだ名を常用するようになった。

妹の名は「妹」そのもので、兄である況（キョン）に対応して名づけられた。つまり原作中で妹は本名で呼ばれていたことになる（ルビがふってなかったので読者は妹がハルヒたちに「いもうとちゃん」と呼ばれていると勘違いするが、実は「マイちゃん」と呼ばれていた）。

「編集長★一直線！」の中で鶴屋さんが『気の毒！少年Nの悲劇』という小説を書いて皆を笑わせたが、この少年Nの「N」とはケインの「ン」をイメージしたもので、実はキョンをモデルに書いた小説だった（キョンの「ン」かもしれない）。そんなことをキョンはまったく気づかず、一緒になって笑い転げていた。

（候補 6）

キョンの名前：台之尊 聖人（だいのそん たかひと）

妹の名前： 台之尊 聖羅（だいのそん せいら）

（説明）

キョンは「序章・夏」（「涼宮ハルヒの暴走」5ページ）によると夏休みに田舎へ帰省した際に「甥やら姪やら」に会っている。この甥やら姪やらが正しくキョンの甥と姪であるならば、キョンには兄か姉がいることになる。ストーリーには出てこないで、キョンの両親とは別に世帯を構えていると思われる。本来なら実家であるキョンの家にまず帰るはずであるが、キョンの祖父母のいる田舎（川や海や山や草原があるので、文字通りの田舎なのだろう）に子どもがいるのであれば、根拠は乏しいが多分その田舎の方に嫁いだ姉なのだろう。

キョンの妹がまだ小学5年生なのに甥や姪がいるというのも妙な気がするが、磯野家のカツオやワカメも小学生なのに甥（タラちゃん）がいるのでありえないことではない。

キョンが原作第1巻発表年の2003年頃に高校1年生で、姉が20歳過ぎくらいと考えると、姉が生まれたのは1980年代初め頃となる。キョンの父は、苗字が「台之尊」なので、「尊」の字に通じる高貴な意味の漢字を子どもの名前につけようと考えた。1980年代初め頃はちょうど松田聖子がアイドルとして人気を博していた頃で、そのためキョンの姉は聖子（きよこ）と名づけられた。字は同じであるが、まったく同じというのも何なので、わざと読みを変えたのである。

2003年に高校1年生ならば、キョンが生まれた年は1987年頃になる。キョンの父はキョンの名前にも「聖」の字をつけようと考えていたが、ちょうどその頃、「聖闘士星矢（セイントセイヤ）」というマンガがはやっていた（1985年12月から週刊少年ジャンプで連載され1986年からTVアニメ化された）。そこで父親は、男の子が2人生まれたら長男を「聖人（セイント）」、次男を「星矢」または「聖也」にしようと考えた（さすがに「聖闘士」という名前をつけるのはためらわれた）。そのためキョンは「聖人」と名づけられたが、漢字の読みは母親の反対があって結局「たかひと」に落ち着いた。

「聖」という漢字は「耳」と「呈（まっすぐに述べるの意味）」に分けられるため、父親はキョンに、「物事を正直に述べ、また、正直に述べられたことを聞き分けられるようになることを願って名づけた」と説明した。高貴な感じは多少あるが、壮大というのは佐々木の勝手な好印象だろう。

次に生まれた子は女の子（つまりキョンの妹）だったため、さすがに「セイヤ」とは名づけられなかった。妹は1992年頃の生まれとなるが、ちょうどその頃「美少女戦士セーラームーン」というアニメがはやっていた（第1シリーズは1992年3月か

ら1993年2月まで放映された)。姉が当時このアニメに夢中であったこともあり、姉兄と同じく「聖」の字を使って、妹は「聖羅(せいら)」と名づけられた。

叔母は、キョンの姉の名前を「きよこ」と読むため、キョンの名前も「きよひと」と読むものと勘違いしていた。キョンが小学生の頃に自分の名を漢字で書いて叔母に見せたところ、字が下手だったため「人」が「ん」のようになってしまい、叔母に「これじゃあキヨヒトでなくキヨんだ」とからかわれた。その一言がもとになって「キョン」というあだ名が誕生した。

みくるにとっては、苗字の「台之尊」は長くて呼びにくいし、皆が「キョン」と呼ぶのに自分だけ「タカヒトくん」と呼ぶのもキョンのことを特別視しているように思われかねないので、ハルヒの手前、皆と同様に「キョンくん」と呼ぶようにした。

(…理由づけがだんだん難しくなってきたので、長い説明になってしまいました。このような、字が汚かったので「キョン」と読めたというパターンはまだまだあります。例えば「寿二(としじ)」→「キョン」とか。しかし高貴で壮大な名前とは言い切れませんし、名前の由来もそうそう思いつきません。苗字や妹の名前との関連もひらめきません。)

(候補7)

キョンの名前：清水 恭順(しみす よしゆき)

妹の名前： 清水 美寿実(しみす みすみ)

(説明)

苗字の「清水」は珍しくないが、「しみず」でなく「しみす」と読むのが珍しい。恭順の由来は「武備恭順」からきており、立場上意にそわない指示に従わなければならない(恭順)ことも人生にはあるが、時期をみて糾すことができるよう心中は戦いに備えておく(武備)という意味で名づけられた(「武備」は心中に隠しているので名前には出ていない。本来の「武備恭順」の意味とは少しニュアンスが異なる)。「武備恭順」は幕末の会津藩の態度として有名で、佐々木は由来ある名前だと感心したが、「壮大で高貴」というのはほめすぎだろう。

「恭順」はいろいろな読み方ができるので叔母は混乱して正しい発音がおぼえられず、音読みの「きょうじゅん」から「きょうくん」と読んでいたうちに、いつのまにか「キョンくん」になっていた。あるいは氏名の別読み「きよみず きょうじゅん」から「キョンキョン」と呼び、いつのまにか「キョンくん」になったのかもしれない。

名前の「順(じゅん)」と苗字の「清水(しみす)」は音が「ジョン・スミス」に似ており(実際キョンは自分の名前をもじってこの偽名を考えついた)、みくるはハルヒにキョンが「ジョン・スミス」であることを気づかせないために(ひよっとしたら朝比奈さん(大)の指示で)キョンの苗字も下の名前も呼ばなかった。

妹の名前は「しみすみすみ」と舌を咬みそうになるのに加え、やはり「スミス」を連想させる危険が大なので、名前を呼ばないようにしていた。

(候補8)

キョンの名前：大久 斯苑(だいく しおん)

妹の名前： 大久 有沙(だいく ありさ)

(説明)

「斯苑」という名前は斯界(この世界、あるいは何かの権威のこと)をもじって「界」を「苑(その)」に変え、何かの学芸の権威になれるよう精進してほしいという願いを込めてつけられた(父親談)。花の紫苑と音が同じなので優雅な印象を受け、佐々木が感心することになる。

キョンは知らないが、本当はガンヲタの父親が「ダイク(ン)」という苗字から連想して「斯・苑(し・あや=しゃあ)」と命名したのが真相。キョンには兄がいて(候補6の説明を参照)嘉昂(よしたか=かすばる)と名づけられ、次に女の子が生まれたら「有沙(ありさ=ある【てい】しあ)」と名づけようと思っていたが、キョンが生まれてしまったのでやむなく変則的な(苗字にあわない)名前にした。後年妹が生まれて、めでたく「有沙」と名づけられた(もうひとり女の子が生まれていたら、その子は「聖羅」と名づけられるところだった)。

叔母は「斯苑」を「きおん」と誤って読み、それが「キョン」というあだ名のもとになった。

「大久くん(だいくくん)」と呼ぶと「く」が重なって呼びにくいし、「だいく」と呼び捨てにするとそれを聞きつけた大工さんに怒られてしまうので、友人たちは「キョン」というあだ名を好んで使った。特に名前の「しおん」はハルヒには知られてならない偽名「ジョン」と音が似ているので、みくるは使わないよう注意していた。

(候補9)

キョンの名前：右代宮 戦人(うしろみや ばとら)

妹の名前： 右代宮 縁寿(うしろみや えんじえ)

(説明)

PCゲーム「うみねこのなく頃に」の主人公およびその妹と同姓同名。当初は上に記したように冗談だったが、他の候補とあまりレベルが違わないので、正式に候補とすることにした。

あだ名の由来は、昔キョンの字が下手で、「戦人」の「単」が「キ」に、「戈」が「オ」に、「人」が「ん」に見えて、「キオン」から「キョン」というあだ名を叔母(右代宮楼座?)が付けた。「うしろみや」も「ばとら」も知らない人が聞いたら振り返りそうな名前、口にするのが気恥ずかしく呼びにくい(壮大で高貴というのは佐々木の勝手な好印象)。「えんじえ」も読みにくく、人の注目を引きやすい。みくるはその任務上、注目されるのは避けたいはずなので、2人を本名では呼ばなかった。

5) 参考文献

涼宮ハルヒの憂鬱(角川スニーカー文庫) 2003/06

涼宮ハルヒの退屈(角川スニーカー文庫) 2003/12

涼宮ハルヒの暴走(角川スニーカー文庫) 2004/10

涼宮ハルヒの憤慨(角川スニーカー文庫) 2006/04

オフィシャルファンブック 涼宮ハルヒの公式(角川書店) 2006/08

涼宮ハルヒの分裂(角川スニーカー文庫) 2007/03

言葉の常備薬(双葉文庫) 2007/06

うみねこのなく頃に Episode1 真相解明読本(双葉社) 2007/11

この論文は HENKEI-Project 製作雑記 (<http://page.freett.com/henkei/diary/>) に掲載しました。